

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	: ピュアバック SC
会社名	: 株式会社 モリタ
住所	: 〒564-8650 大阪府吹田市垂水町3丁目33番18号
担当部門	: —
電話番号	: 06-6380-2525
FAX 番号	: —
緊急連絡電話番号	: 0800-222-8020(お客様相談センター)
整理番号	: S-620-01
推奨用途及び使用上の制限	: バキューム回路の洗浄(歯科医療専用)

### 2. 危険有害性の要約

#### 【GHS分類】

物理化学的危険性	: 引火性液体 ; 区分3 自然発火性液体 ; 分類できない 金属腐食性物質 ; 分類できない
健康有害性	: 急性毒性(経口) ; 区分外 急性毒性(経皮) ; 区分外 急性毒性(吸入) ; 区分外 皮膚腐食性及び刺激性 ; 区分2 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 ; 区分2 呼吸器感作性 ; 分類できない 皮膚感作性 ; 分類できない 生殖細胞変異原性 ; 分類できない 発がん性 ; 分類できない 生殖毒性 ; 区分2 特定標的臓器毒性(単回ばく露) ; 区分2(中枢神経系、全身毒性) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) ; 区分2(血液系) 吸引性呼吸器有害性 ; 分類できない
環境有害性	: 水生環境有害性(急性) ; 区分外 水生環境有害性(長期間) ; 区分外 (追記)混合物の約60%は水生環境有害性が不明の成分である。 オゾン層への有害性 ; 分類できない

#### 【GHSラベル要素】

絵表示又はシンボル



注意喚起語  
危険有害性情報

- : 警告
- : ・引火性液体及び蒸気  
・皮膚刺激  
・強い眼刺激  
・生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い  
・臓器(中枢神経系、全身毒性)の障害のおそれ  
・長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(血液系)の障害のおそれ

## 2. 危険有害性の要約(続き)

注意書き :

[安全対策]

- ・使用前に使用方法をよく読むこと。
- ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・保護手袋/保護眼鏡等を着用すること。
- ・熱/高温のもの/火花/裸火および他の着火源から遠ざけること。  
禁煙。
- ・容器を密閉しておくこと。
- ・容器を接地しアースをとること。
- ・防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。
- ・火花を発生させない工具を使用すること。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・取扱い後は手及び眼をよく洗うこと。
- ・蒸気等を吸入しないこと。
- ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

[応急措置]

- ・皮膚(又は髪)に付着した場合：汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
  - ・火災の場合：消火するために二酸化炭素、耐アルコール性泡、粉末、水噴霧を使用すること。
  - ・皮膚に付着した場合：多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。
  - ・皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
  - ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
  - ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
  - ・眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。
  - ・ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。
  - ・ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
  - ・気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。
- [保 管] :
- ・換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
  - ・施錠して保管すること。
- [廃 棄] :
- ・内容物/容器を国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

成分

水

プロピレングリコール

イソプロパノール

重炭酸ナトリウム

エチプロピルキル化された C8-C10 の

アルコール

その他

: 混合物

濃度範囲(%)

化学式

官報公示整理番号

CAS No.

40~60

H<sub>2</sub>O

対象外

7732-18-5

25~30

C<sub>3</sub>H<sub>8</sub>O<sub>2</sub>

2-234(化審法・安衛法)

57-55-6

5~10

C<sub>3</sub>H<sub>8</sub>O

2-207(化審法)

67-63-0

2-(8)-319(安衛法)

1-164(化審法・安衛法)

144-55-8

2~5

—

—

68603-25-8

2~5

—

—

非開示

#### 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移動させ、体を毛布等で覆って保温し安静に保つ。  
呼吸困難に陥った場合は、衣類を緩め気道を確保した上で酸素吸入あるいは人工呼吸を施す。  
直ちに医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類、靴等を速やかに脱ぎ捨てる。  
付着した部分は流水で流した後、石けんを用いてよく洗い落とす。  
痒み、痛み等、皮膚に異常が生じた場合は医師の診察を受ける。
- 眼に入った場合 : 清浄な多量の水で最低 15 分間眼を洗浄した後、眼科医の手当を受ける。  
洗眼の際、まぶたを指でよく開き、眼球のすみずみまでよく水が行きわたるように眼を上下左右に動かす。
- 飲み込んだ場合 : 無理に吐かせてはならない。  
水で口の中をすすぎ、コップ一杯の水を飲ませる。  
嘔吐が自然に起こった場合は、気管に入らないように身体を傾ける。  
意識がない場合、痙攣している場合には、口から何も与えてはいけない。  
直ちに医師の手当てを受ける。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 : 眼や皮膚に対する刺激。  
ミストや蒸気を吸入した場合は、上気道の刺激。
- 医師に対する特別な注意事項 : 過剰ばく露をした場合は、症状及び状態によって適切に対処する。

#### 5. 火災時の措置

- 消火剤 : 二酸化炭素、耐アルコール性泡、粉末、水噴霧
- 火災時の特有の危険有害性 : 可燃性の液体及び蒸気であり、狭い場所に蒸気が充満すると、炎で爆発する危険がある。
- 特有の消火方法 : 周辺火災の場合は、周辺の設備などに散水して冷却する。  
移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。  
消火水や希釈水の流出により環境汚染を引き起こさないように注意する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業は必ず自給式呼吸器等の保護具を着用し、風上から行う。

#### 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置 : 漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立入りを禁止する。  
風下で回収作業をしてはならない。  
全ての着火源を取り除き、漏出場所を換気する。  
回収作業の際には保護具を着用すること。  
流出量が多量の時は、自給式呼吸器等の呼吸用保護具を使用する。
- 環境に対する注意事項 : 土壌に浸透させてはならない。  
下水、河川、排水溝等に流してはならない。  
法規に基づき、必要に応じて漏出の報告をする。

## 6. 漏出時の措置(続き)

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- : 漏出物は不燃性物質に吸収させ、適切な容器に回収する。
- 火花を発生しない道具を使用する。
- 付近の着火源となるものを取り除き、火災発生の防止に努める。
- 回収物は「13. 廃棄上の注意」の項の記載に準じて処分する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- : 付近での火気の使用を禁止し、アースを取る等の静電気対策を行う。
- 密閉された装置/機器類を使用するか、局所排気装置を使用して取扱う。
- 蒸気の吸入及び、眼、皮膚、衣類との接触は極力避ける。
- ばく露のおそれがある場合には、適切な保護具を着用する。
- 長期間の取り扱い、あるいは反復したばく露はできる限り避ける。
- 作業後は石けんを用いて手洗いや洗顔を励行する。

保管

- : 未使用時には、容器を密閉する。
- 高温、火花、炎等の全ての着火源から離す。
- : 直射日光を避け、乾燥した換気のよい場所に保存する。
- 容器に物理的な衝撃を与えない。
- 容器は確実に密閉し、保管場所は火気厳禁とする。
- 強酸化剤、酸、塩基から離して保管する。

安全な容器包装材料

- : プラスチック容器

## 8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

- : 適切な一般排気装置又は局所排気装置を設置する。
- 取扱い場所近くに、洗眼器および身体洗浄シャワーを設置する。

管理濃度 作業環境評価基準

- : 200ppm(イソプロパノール)

許容濃度

日本産業衛生学会  
(2016)<sup>1)</sup>

- : 400ppm(最大許容濃度)(イソプロパノール)

ACGIH-TLV(2016)<sup>2)</sup>

- : (TWA)200ppm (STEL)400ppm(イソプロパノール)
- (TWA) : 時間荷重平均値(8時間)、(STEL) : 短時間ばく露許容濃度(15分間)

保護具

呼吸用保護具

- : 通常の使用条件では不要

手の保護具

- : 不浸透性の保護手袋(ゴム製等)

眼の保護具

- : 保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具

- : 必要に応じて適切な保護具を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観

- : 薄緑色液体

臭い

- : わずかなクエン酸臭

沸点

- : データなし

引火点

- : 40.6℃

燃焼又は爆発範囲の上限・下限

- : データなし

蒸気圧

- : データなし

比重

- : データなし

発火温度

- : データなし

水溶解度

- : 混和する

## 9. 物理的及び化学的性質(続き)

pH	: 濃縮時: pH 9 推奨濃度に希釈時: pH ~7
(参考データ) <sup>3)</sup>	
沸 点	: 188.2°C(フ °ロビ °レング °リコール)、83°C(イソフ °ロハ °ノール)
引 火 点	: 101°C(フ °ロビ °レング °リコール)、11.7°C(イソフ °ロハ °ノール)
燃焼又は爆発範囲の上限・ 下限	: 2.6~12.6vol%(フ °ロビ °レング °リコール)、2~12vol%(イソフ °ロハ °ノール)
蒸 気 圧	: 10.6Pa(フ °ロビ °レング °リコール)、4.4kPa(20°C) (イソフ °ロハ °ノール)
比 重	: 1.04(フ °ロビ °レング °リコール)、0.79(イソフ °ロハ °ノール)
密 度	: 2.1g/cm <sup>3</sup> (重炭酸ナトリウム)
発火温度	: 420°C(フ °ロビ °レング °リコール)、456°C(イソフ °ロハ °ノール)
水溶解度	: 混和する(フ °ロビ °レング °リコール、イソフ °ロハ °ノール)、8.7g/100ml(20°C)(重炭酸ナトリウム)
融点・凝固点	: -59°C(フ °ロビ °レング °リコール)、-90°C(イソフ °ロハ °ノール)、50°C(分解)(重炭酸ナトリウム)
蒸気密度(空気=1)	: 2.6(フ °ロビ °レング °リコール)、2.1(イソフ °ロハ °ノール)
n-オクタノール/水分配係数	: -0.92(フ °ロビ °レング °リコール)、0.05(イソフ °ロハ °ノール)

## 10. 安定性及び反応性

安 定 性	: 通常の取扱い条件においては安定。
危険有害反応可能性	: 混触危険物質に触れると反応するおそれがある。
避けるべき条件	: 熱、火花、炎等の着火源との接触
混触危険物質	: 強酸化剤、酸、塩基
危険有害な分解生成物	: 熱分解で、炭素酸化物、アルデヒド、アルコール、エーテル、有機酸が発生するおそれがある。

## 11. 有害性情報

### 急性毒性

[経口毒性]	: 製品の GHS 分類結果(区分外)
・ 水	; ラット LD <sub>50</sub> >90 ml/kg <sup>4)</sup>
・ フ °ロビ °レング °リコール	; ラット LD <sub>50</sub> 20 g/kg <sup>4)</sup>
・ イソフ °ロハ °ノール	; ラット LD <sub>50</sub> 4384 mg/kg <sup>5)</sup>
・ 重炭酸ナトリウム	; ラット LD <sub>50</sub> >4000 mg/kg <sup>5)</sup>

[経皮毒性]	: 製品の GHS 分類結果(区分外)
・ フ °ロビ °レング °リコール	; ウサギ LD <sub>50</sub> 20800 mg/kg <sup>4)</sup>
・ イソフ °ロハ °ノール	; ウサギ LD <sub>50</sub> 12870 mg/kg <sup>5)</sup>
・ 重炭酸ナトリウム	; ラット LD <sub>50</sub> >2000 mg/kg <sup>5)</sup>

[吸入毒性]	: 製品の GHS 分類結果(区分外)
・ フ °ロビ °レング °リコール	; ラット LC <sub>50</sub> >44.9 g/m <sup>3</sup> <sup>4)</sup>
・ イソフ °ロハ °ノール	; ラット LC <sub>50</sub> 68.5 mg/l <sup>5)</sup>
・ 重炭酸ナトリウム	; ラット LC <sub>50</sub> 5.33 mg/l <sup>5)</sup>

LD<sub>50</sub>: 半数致死用量、LC<sub>50</sub>: 半数致死濃度

## 1.1. 有害性情報(続き)

- 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 製品のGHS分類結果(区分2)
- ・ プロピレングリコール ; ヒト子供 Draize test 30 % 中等度<sup>4)</sup>
  - ・ イソプロパノール ; ウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果、刺激性なし又は軽度の刺激性を示した。また、ヒトの皮膚に対しては刺激性なし～軽微ないし軽度の刺激性を示した。<sup>5)</sup>  
ウサギ Draize test 500 mg 軽度<sup>4)</sup>
  - ・ 重炭酸ナトリウム ; ウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果、きわめて軽度の刺激性を示した。<sup>5)</sup>
- 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: 製品のGHS分類結果(区分2)
- ・ プロピレングリコール ; ウサギ Draize test 100 mg 軽度<sup>4)</sup>
  - ・ イソプロパノール ; ウサギを用いた眼刺激性試験の結果、軽度から重度の刺激性を示した。<sup>5)</sup>  
ウサギ Draize test 100 mg 重度<sup>4)</sup>
  - ・ 重炭酸ナトリウム ; 眼刺激性試験の結果、わずかな刺激性を示した。<sup>5)</sup>
  - ・ エトキシプロピル化された C8-C10 のアルコール ; ウサギ Draize test 100  $\mu$ l/24h 重度<sup>4)</sup>
- 呼吸器感作性 : 製品のGHS分類結果(分類できない); 成分のデータなし
- 皮膚感作性 : 製品のGHS分類結果(分類できない); 成分のデータなし
- 生殖細胞変異原性 : 製品のGHS分類結果(分類できない); 成分のデータなし
- 発がん性 : 製品のGHS分類結果(分類できない)
- ・ イソプロパノール ; IARC:3(ヒト発がん性について分類できない)<sup>2)</sup>  
ACGIH:A4(発がん性物質として分類できない)<sup>2)</sup>
- 生殖毒性 : 製品のGHS分類結果(区分2)
- ・ イソプロパノール ; ラットを用いた2世代試験の結果、親動物に一般毒性影響が認められる用量で児動物に影響が認められた。また、ラットを用いた発生毒性試験の結果、母動物に毒性が認められる用量で生殖毒性が認められた。<sup>5)</sup>
- 特定標的臓器毒性(単回ばく露)
- ・ イソプロパノール ; 製品のGHS分類結果(区分2)  
; 全身毒性、中枢神経系への障害が報告されている。<sup>5)</sup>  
呼吸器を刺激するおそれがある。<sup>5)</sup>
- 特定標的臓器毒性(反復ばく露)
- ・ イソプロパノール ; 製品のGHS分類結果(区分2)  
; 血液系への障害が報告されている。<sup>5)</sup>  
呼吸器、肝臓、脾臓への障害のおそれがある。<sup>5)</sup>
- 吸引性呼吸器有害性 : 製品のGHS分類結果(分類できない); 成分のデータなし
- その他の情報 : 特になし

## 1.2. 環境影響情報

- 生態毒性 : 製品のGHS分類結果(急性; 区分外、長期間: 区分外)
- ・ プロピレングリコール ; 水生生物への有害性は低い。<sup>6)</sup>
  - ・ イソプロパノール ; 水生生物への有害性は低い。<sup>5)</sup>
  - ・ 重炭酸ナトリウム ; 水生生物への有害性は低い。<sup>5)</sup>

## 1 2. 環境影響情報(続き)

### [毒性データ：魚類]

・ プロピレングリコール	； ヒメダカ	LC <sub>50</sub> (96h)	>100 mg/l <sup>6)</sup>
・ イソプロパノール	； メダカ	LC <sub>50</sub> (96h)	>100 mg/l <sup>5)</sup>
・ 重炭酸ナトリウム	； ニジマス	LC <sub>50</sub> (96h)	7700 mg/l <sup>5)</sup>

### [毒性データ：甲殻類]

・ プロピレングリコール	； オオシニコ	EC <sub>50</sub> (48h)	>1000 mg/l <sup>6)</sup>
・ イソプロパノール	； オオシニコ	EC <sub>50</sub> (48h)	>1000 mg/l <sup>5)</sup>
・ 重炭酸ナトリウム	； ニセネゼミシニコ	EC <sub>50</sub> (48h)	1020 mg/l <sup>5)</sup>

LC<sub>50</sub>：半数致死濃度、EC<sub>50</sub>：半数遊泳阻害濃度

### 残留性・分解性

・ プロピレングリコール	； 良分解性と判定されている。 <sup>6)</sup> [BOD(分解度)] 89.7% <sup>6)</sup>
・ イソプロパノール	； 急速分解性がある。 <sup>5)</sup> [BOD(分解度)] 86% <sup>5)</sup>
・ 重炭酸ナトリウム	； 無機化合物のため水中での挙動が不明。 <sup>5)</sup>

生体蓄積性 : データなし

土壌中の移動性 : データなし

オゾン層への有害性 : データなし

その他の情報 : 特になし

## 1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	： 土壌に浸透させたり、下水、河川等に流してはならない。 焼却灰は法規に従って処理すること。 多量の場合は認可を受けた専門業者に委託する。 関係法令を遵守し、自治体の指示に従うこと。
汚染容器及び包装	： 容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 1 4. 輸送上の注意

国連番号	： 1993
品名(国連輸送名)	： その他の引火性液体、他に品名が明示されていないもの
国連分類	： 3(引火性液体)
容器等級	： III
応急措置指針番号	： 127
海洋汚染物質	： 非該当
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	： 船舶又は航空機で輸送する場合は「UN」マーク入り容器を使用し標札を表示する。 車両等によって運搬する場合は、荷送人は運送人に運送注意書(イエローカード)を渡す。 容器の破損、洩れ、栓の閉まり具合を確かめ、衝撃、転倒、落下、破損のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。

#### 1.4. 輸送上の注意(続き)

タンク車(ローリー)への充填や、積み下ろし作業の際は、サイドブレーキをかけ、エンジンを停止させ、車止めを施す。  
「7. 取り扱い及び保管上の注意」の記載に準じて取扱う。  
輸送関係法規を厳守する。

#### 1.5. 適用法令

消 防 法	: 指定可燃物(可燃性液体類)(指定数量 2m <sup>3</sup> )(製品)
化 審 法	: 優先評価化学物質(プロパノール-1, 2-ジオール、イソプロピルアルコール)
労働安全衛生法	: 危険物(引火性の物)(製品) 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(リスクアセスメント対象) (名称等を表示すべき危険物及び有害物)(プロピルアルコール) (名称等を通知すべき危険物及び有害物)(プロピルアルコール) 有機則 第2種有機溶剤等(製品: イソプロピルアルコール>5%含有)
毒劇物取締法	: 非該当
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	: 非該当
海洋汚染防止法	: ばら積み運送; 該当しない
船舶安全法	: 危規則 引火性液体類(製品)
港 則 法	: 危規則 引火性液体類(製品)
航 空 法	: 危険物 引火性液体(製品)

※プロパノール-1, 2-ジオールは、プロピルグリコールに該当

イソプロピルアルコール、プロピルアルコールは、イソプロパノールに該当

#### 1.6. その他の情報

引用文献:

- 1) 「許容濃度等の勧告(2016年度)」; 産衛誌 58巻, P181
- 2) 2016 Guide to Occupational Exposure Values (ACGIH)
- 3) 国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版(国立医薬品食品衛生研究所(NIHS))
- 4) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (CCOHS)
- 5) GHS分類結果データベース(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
- 6) 化審法データベース(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)

記載内容問い合わせ先 : お客様相談センター  
フリーコール 0800-222-8020(無料)  
携帯・PHP 06-7664-8080(有料)  
FAX番号 0800-222-6480  
電子メール e-customer@morita.com

ここに記載された情報は、弊社データを含め種々の技術出版物にあるデータに従ったものです。必要かつ安全な取扱いを決定する場合には、使用者がその責任においてこの情報の利用をお決め下さい。なお、ここに記載された情報は、作成時点では弊社の調査による最新の情報に基づき作成されたものですが、法律、規制等の改正、新たな毒性試験結果の発表等により、改訂がありうることをご承知下さい。